



「平和や互いの向上に役立つことを追い求めようではありませんか」
(ローマの信徒への手紙 14章 19節)

発行

2016年1月1日 第104号

社会福祉法人 名古屋キリスト教社会館
発行人／湧井 規子
編集人／佐藤 明裕
〒457-0805
名古屋市南区三吉町6丁目17番地
TEL／052-612-3370（本部）
FAX／052-611-9085
URL／<http://shakaikan.com>
E-mail／bonbu@shakaikan.com

ユダヤ人一斉検挙からやつとの思いで逃れた六歳の少年がいた。彼は、精神科医で作家のボリス・シリユルニクさん。長くつらい「心の戦後」を乗り越えて、凍りついた言葉を語りだしたことが新聞に掲載されていた。

タビューリーに答えて、

「権力を掌握するためにイスラム教を使っている集団がいる。ある意味、一番の犠牲者は一般のイスラム教徒だと思います。こうした憎しみの連鎖を断つには、自分と違うものを見いだす喜びを子どもたちに教えなければなら

これは、金子みすずの詩「みんなちかつて みんないい」を教材にした授業で出された宿題に、小学四年生の野乃花さんが書いた詩。【一】内に何を書くか、どれだけ考えたことだろう。自分と他者を見つめながら、今を生きている自分をとても素直に語っている。彼女の葛藤も垣間見ながら、彼女の懸命さとこれから育ちゆく命のみずみずしさに感動した。同時に、彼女を育もうとしている周りの人たちの温かな存在を感じた。人と出会う喜びを体験しないなければ書けない詩だと思う。

私が【いつしうけんめいはしつて】も、
【こうどうがはやくできない】が、
【みんな】は、私のように、
【マイペースであるけ】ない。
私たちが【あたまをつかつて】も、
【先生には、なれない】けど、
【先生】は、私たちのように、
【はしゃぎすぎることは、でき】ないよ。
【みんな】と【先生】と、それから私
みんなちがつて、みんなない。

An illustration featuring a brown monkey in profile, facing right, and two pine branches with green needles and small red cones.

理事長 湧井 規子

新しい年を迎えた。どの価値観を選びとつてこの地球上に生きる人となるのか。

私たちは、「戦争」を選択しない「平和憲法」を選ぶ。私たちは、「命と地球」を破壊する「原子力」を選ばない。非人道的な「全体主義」に抗して、『人と出会う喜び』を創造する社会福祉を、手間をかけながら実践し続けることを選び取る。出会う人たちとの対話を繰り返し、自分と違うものを見いたす喜びをたくさん発見する一年となるよう歩みたい。

今年もよろしくお願ひ申し上げます。

わなくなる。……」と。
自分と違うものを見いだす喜びを知るためには、『人と出会う喜び』というう意味が必要だ。しかし、日本の社会情勢において、私たちは、他者との対話を面倒に感じる傾向にあると思う。このままでは、全体主義を染だと感じる状況が拡がっていく。無関心に傍観したら望まない道に落ちていく。

名古屋キリスト教社会館の使命

名古屋キリスト教社会館は、創立の精神に基づき、次の使命を担います。

- すべての人々がかけがえのない存在として人権が保障され、自立した人間として成長していく社会を築くことをめざします。
- 隣人とのでのいい、ふれあい、そだちあいを大にし、ともに地域の課題を担うことを通して福祉の輪が拡がるように努めます。
- 世界の人々との交わりを通して、福祉社会の実現のために働きます。

顧理常務理事事評議員長問議員評議員規子巍義

謹賀新年

名古屋キリスト教社会館

西館オープンに早期療育の希望をのせて

南部地域療育センターがスタートしてから十九年が経ちました。発達センターあつたは十二年が経ちました。児童発達支援センターでは、二歳児の入園が課題になり、そよ風通園部は四十三名、発達センターあつたは三十七名の子どもたちが、定員を超えて通園しています。慢性的な通園の待機児の問題は保育園の待機児のようにクローズアップされてしまませんでしたが、名古屋の早期療育積年の課題であり、三歳児が入園できない可能性すらあつたのです。

ここで、ピックニユースです。四月、南部地域療育センターそよ風の通園部の定員が四十人から五十人に増えます！社会館が進める「西館」に保育室を設置しての定員拡大です。わずか十名の定員増でも、そよ風通園部と発達センターあつたの待機児が大幅に解消します。ひょっとすると待機児ゼロが実現するかもしれない大きな期待とともに四月の西館オープニングに向かいます。

近年の特徴は、一歳児でそよ風に来所する子どもが増えていることです。初診は残念ながら長く待たないと受診できない状況です。しかし、療育グループは、受付時点から開始することで一歳児からの早期対応を



実現しています。これは、保健所や保育園等、そよ風を紹介して下さる地域の関連機関の努力も見逃せません。取りくまれる遊びはもちろんですが、早期から相談対応があることでお母さんの育児ストレスの軽減につながり、子どもの健やかな育ちに結び付きます。このような場が、療育センターの中だけでなく、地域でおこなわれている子育て支援のとりくみの中にもできていくと、育ちに不安がある子の支援がぐっと広がるとも考えます。

発達相談、診療、リハビリテーション、児童発達支援事業、障がい児相談支援事業、保育園・幼稚園への巡回療育など、多くの事業と共に、今年も障がいを持つ子どもたちが地域で安心して暮らすことができ、適切な配慮を得て、すくすく育つ地域づくりを進めています。

- 南部発達センター部
- 南部地域療育センターそよ風
- ディサービスACT
- 障害児相談支援事業所そよ風
- 発達センターあつた
- ディサービスあつた

責任者…所長 堀江重信
下妻幸美（センター長）、渋谷文平

佐藤明裕、金武勝己、安藤典明、矢形進
南部地域療育センター
相談診療部長 金武勝己

南部発達センター部



子どもたちの発達を守るために制度に

東部発達センター部では、千種区に「東部地域療育センターぽけっと」（以下ぽけっと）を昨年六月に開所以来、守山区にある「発達センターちよだ」（以下ちよだ）と共に力をあわせ、名古屋市東部方面の早期療育、発達支援をすすめています。

当法人では「ぽけっと」と「ちよだ」を含め四つの児童発達支援センターを運営しています。その運営は国からの給付費と名古屋市の補助金で運営されています。国の給付費は、子どもたちの出席数で決まります。従来は、その不足分が名古屋市の補助金で補われていました。しかし名古屋市は昨年、国の給付費を子どもの出席率を八十二%と固定し、その不足分への補助という形に変更しました。障がいがある子どもたちにとって、特に重い障がいのある子どもたちが八十二%出席することは、とても大変です。体調に配慮しながらその子のペースに応じた登園保障が必要です。登園できないうちは訪問療育もします。子どもはなかなか登園できませんが、保護者同士は同じ通園に通っているという気持ちでつながります。このように持続でつながります。

まだ若い方たちでも、将来への不安は抱えています。すぐにグループホームではなくても、本人たちが少しづつでも家族と離れた生活を体験したいと考えています。こうした体験ができる、ショートステイを利用したいというニーズは高くなっています。ショートステイの利用を通じて、仲間たちが自立したいという要

東部発達センター部



障がいの重い人たちの地域生活を考える西館二号館の実現にむかって

り、切り捨てられていくような改悪といえるものです。障がいの重い子どもたちこそ大切にされるべきです。

地域療育センター内にある診療所の人件費はすべて名古屋市の補助金で賄われます。東部エリアは名古屋市の子ども人口の二十四%強が集中しています。関係機関と連携しながら事業を進める中で、発達相談や訓練等を希望する子どもの予約が三か月待ちとなり、通園部への入所も待機児がいる状況です。これからもそ

れらのニーズに応える働きを進めたいと思います。しかし、生み出された診療報酬や、障害児療育等支援事業の報酬は、名古屋市的人件費の補てん分に充てられます。多くの人が地域で安心し、気軽に相談でき、利用しやすいセンターになりたいと思いません。そのためにも、人員を増やし、

独自に取り組んでいる事業を補助してもらえるよう名古屋市に訴えていきたいと思います。今回の問題については、広く市民の方に理解してもらいたい、子どもたちの発達を守るために地域の機能の整備が、早急に解決しなくてはいけない課題になっています。そのためにも、人員を増やし、

支援センター部で関わる人たちが、年齢を重ねてきています。同時に両親も年齢を重ねています。自宅での日々の生活を送ることが難しくなってきているケースもあります。「親亡き後」ということを見据えた

支援センター部で関わる人たちが、年齢を重ねてきています。同時に両親も年齢を重ねています。自宅での日々の生活を送ることが難しくなってきているケースもあります。「親亡き後」ということを見据えた

支援センター部で関わる人たちが、年齢を重ねてきています。同時に両親も年齢を重ねています。自宅での日々の生活を送ることが難しくなってきているケースもあります。「親亡き後」ということを見据えた

二〇一五年度、支援センター部では、将来計画構想を検討してきました。現在建設が進んでいる西館の隣の土地に、障がいの重い人たちが暮らすグループホームやショートステイ事業所などを開設する計画のほうを進めています。関係機関と連携しながら事業を進める中で、発達相談や訓練等を希望する子どもの予約が三か月待ちとなり、通園部への入所も待機児がいる状況です。これからもそ

れらのニーズに応える働きを進めたいと思います。こうした時にもすぐに対応できる支援も考えていかなく

支援センター部



～暮らしの場を考える西館二号館の実現にむかって～

り、切り捨てられていくような改悪といえるものです。障がいの重い子どもたちこそ大切にされるべきです。

地域療育センター内にある診療所の人件費はすべて名古屋市の補助金で賄われます。東部エリアは名古屋市の子ども人口の二十四%強が集中しています。関係機関と連携しながら事業を進める中で、発達相談や訓練等を希望する子どもの予約が三か月待ちとなり、通園部への入所も待

り、切り捨てられていくような改悪といえるものです。障がいの重い子どもたちこそ大切にされるべきです。

地域療育センター内にある診療所の人件費はすべて名古屋市の補助金で賄われます。東部エリアは名古屋市の子ども人口の二十四%強が集中しています。関係機関と連携しながら事業を進める中で、発達相談や訓練等を希望する子どもの予約が三か月待ちとなり、通園部への入所も待

り、切り捨てられていくような改悪といえるものです。障がいの重い子どもたちこそ大切にされるべきです。

地域療育センター内にある診療所の人件費はすべて名古屋市の補助金で賄われます。東部エリアは名古屋市の子ども人口の二十四%強が集中しています。関係機関と連携しながら事業を進める中で、発達相談や訓練等を希望する子どもの予約が三か月待ちとなり、通園部への入所も待

り、切り捨てられていくような改悪といえるものです。障がいの重い子どもたちこそ大切にされるべきです。

- 東部発達センターぽけっと
- 東部地域療育センターぼけっと
- 障害児相談支援事業所ちよだ
- 発達センターあつた
- ディサービスちよだ

責任者…所長 荒川とよ子
加藤淳（センター長）

責任者…所長 江尻覚、神谷友之、木下敬成
● 社会館障害者基幹相談支援センター

● 社会館障害者基幹相談支援センター



